



国有林野
事業の取組

関東森林管理局

	テーマ	署等名
新たな造林方法、 施業方法の開発・ 導入	コンテナ苗による低コスト造林の検証	福島署、白河支署、棚倉署
	広葉樹を活用した森林造成	群馬署、吾妻署、天竜署
	モザイク施業による循環利用と生物多様性の確保	森林技術センター
	一斉人工林における広葉樹導入手法の開発	森林技術センター
森林施業の効率化、 低コスト化	共同施業団地による森林施業の効率化	福島署、白河支署、伊豆署
	列状間伐による林業の低コスト化、低コスト作業路の作設技術の普及	茨城署、群馬署
	民国連携による森林整備の推進	千葉所
生物多様性の保全等	シカ食害等により衰退した植生の維持・回復	南会津支署、東京神奈川署
	オオタカ、イヌワシ等の生息と調和した森林施業	群馬署、中越署
	AKAYA プロジェクト	赤谷センター
	協働による海岸林の再生	村上支署
	小笠原諸島の保全・管理	小笠原センター、小笠原事務所国有林課
森林資源の活用	林地残材等の有効利用	福島署、白河支署、磐城署、棚倉署、塩田署、利根沼田署
	木材を利用した治山事業	下越署
森林・林業に係る環境教育等		高尾センター、上越署、山梨所、大井川センター

森林・林業再生に向けたチャレンジ



コンテナと苗木▲

丈夫で簡易な路網の作設(群馬森林管理署)▼



関東森林管理局では、昨年4月から「森林・林業再生に向けたチャレンジ」に取り組んでいます。このプロジェクトは、森林・林業の再生に向け、国有林の適正な管理経営を通じて地域の林業振興に貢献することを目的に、管内の各森林管理署が、森林施業の効率化や森林資源の有効利用、生物多様性の保全などの課題を設定して、それぞれの課題解決に向けた取組にチャレンジするものです。その取組の一部を紹介します。

コンテナ苗や広葉樹を活用した森林づくり

福島森林管理署など福島県内3署では、※コンテナ苗の植栽を行い、単位時間当たりの作業量や生育状況のデータを収集し、その有効性を検証しています。平成22年度には福島県内で約9ha、2万本のスギやカラマツのコンテナ苗を植栽しました。今後、先のデータに加え、試験地毎に気象害、獣害の有無などのデータも収集し、造林の低コストに向けた

※ 専用の育成容器を用いた培地付きの苗木で、一般的に初期成長がよいと言われており、植え付け作業やその後の下刈り作業などの省力化が期待されている。

検討に役立てる予定です。

また、災害跡地など早期に緑化が必要な箇所や人工林伐採跡地のうち生物多様性保全の観点から天然林化を図る箇所において、広葉樹を活用した森林づくりなどにも取り組んでいます。

森林共同施業団地の設定の推進と低コストで高効率な作業システムの普及

森林施業の集約化が課題となっている中で、国有林とそれに隣接する民有林で共同施業団地を設定し、一体的かつ効率的に路網の整備や間伐

などを推進しています。昨年9月には、同管内の第1号として、伊豆森林管理署管内に民有林・国有林あわせて558haの共同施業団地が設定され、今年2月には福島森林管理署管内に1408ha、白河支署管内に207haがそれぞれ設定されました。今後も民有林への積極的な働きかけを行い、共同施業団地の設定に取り組んで参ります。

また、列状間伐と路網・高性能林業機械を組み合わせた低コストで高効率な作業システムの導入や丈夫で簡易な路網作設の実証活動を行うとともに、成果の普及も行っています。

森林生態系保全、野生鳥獣との共存へ向けて

現在、世界自然遺産登録を目指している小笠原諸島の陸域の約8割は国有林で占められています。小笠原総合事務所および小笠原諸島森林生態系保全センターでは、有識者や関係行政機関、ボランティアと連携して、希少動植物の保護や外来植物の駆除など、固有の森林生態系を保全する取組を推進しています。

また、群馬県みなかみ町の国有林では、地域住民・自然保護団体と協働しながら生物多様性復元を目指す「AKAYAプロジェクト」(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)や、群馬

県安中市の国有林では、オオタカなど希少猛禽類の生態と調和した森林施業を行う「オオタカモデル森林」(群馬森林管理署)などの取組を実施しています。

近年、ニホンジカやツキノワグマなどの野生鳥獣による被害は深刻化しています。これを受け、クマの剥皮被害を軽減するテープの巻き付けなど効果的な防除方法を管内各地で検証するとともに、防護柵の設置等による植生の維持・回復を実施するなど野生鳥獣との共存に向けた対策を関係機関と連携して進めています。

林地残材を有効活用

森林内に放置されている根株や枝葉などの林地残材を有効活用するため、チップ原料やバイオマスエネルギーへの活用などの新たな需要の開拓や販売方法の工夫、搬出コストの削減に取り組んでいます。

磐城森林管理署は、林業事業者と連携して、専用コンテナで林地残材を回収し、移動式破砕機を使って木材をチップ化する取組を行っています。また、民間林業関係者や県・市の職員と森林バイオマス資源回収システム現地検討会を開催するなど、森林資源の有効活用に向けた情報交換も実施しています。

平成23年は、森林・林業再生プランを具体化していく年です。今後とも国有林のフィールドや技術を活かし、民有林との連携のもと、地域の森林・林業の再生に貢献するよう、さらなるチャレンジに取り組んで参ります。

なお、「森林・林業の再生に向けたチャレンジ」の内容・進捗状況など詳細については関東森林管理局HPに掲載しています。

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kikaku/sirin_ringyo_plan.html

未利用材回収のための専用コンテナへの積み込み(磐城森林管理署)



クマの剥皮被害(右下)と被害防止対策のテープ等(日光森林管理署)

